

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 64 号

発行日
2025.11. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○これも終活の一つ？奇跡のような同期会！

ここ数カ月、懐かしい再会や、新たな出会いの機会が多い！自らが、各地に出かけ（用件は様々だが）、ある意味積極的に、その機会を創り出していることが原因なのであるが、私にとっては、これもまた、一つの「終活」の形かもしれない！今動かなければ、これから先、同じことが出来るかと言え、おそらく出来ない（結果的に出来たとしても）！だから、今無理してでも動いておこう！そういうことである！それが、今回は、高校の、沖縄でのミニミニ同期会への参加である（それにしても、何故沖縄で？）！

実は、この会は、確か、3年前の、「古希」を祝つての全体同期会をきっかけとして生まれたものであるが、今回は、沖縄での「泊旅行」となった次第である！僅か11名の人数であつたが、久しぶりの再会であつた（二人？は、55年振り）！詳しい旅の紹介は、ここでは出来ないが、一つここで書いておきたいことは、参加者全員が、この旅を（短いが！ただし、数泊の人もいた）、自分の思い出や、現在の暮らしに彩りを添えるために（私が、それを、ある種の「終活」と位置付けたように）、動いたであろうことである！

ただし、こういう会は、過去何度も書いているが、中心となり世話をする人がいないと、実現しない！この会では、K（旧姓S）さんのような存在（F県在住）であるが、一年前から計画を立て、予約・交渉等も、すべて彼女が行つた！地元在住の身としては、大変申し訳なかつたとも思うが、甘えさせてもらったということである！いずれにしても、大変楽しい時間であつた！一人、我が家に前泊してくれた友人（Y君）もいたが、まるで奇跡としか言いようがない！

○見えてきた、我が最後の、「心？」のスタンス？

ところで、最近、何故か、ユーチューブの視聴が増えている！もちろん、手当たり次第に視聴しているわけではないが（古代史関係が中心である）、その中に、とても面白い（インパクトのある）人物がいることが分かつてきた！なかでも、MMという人物（作家／予備校講師という肩書）であるが、古代史、そして現代史の双方で、とても歯切れのよい発言が（多少暴言気味になるが？笑、目に付くのである（多くの人達との交流、そしてコラボ動画も、同時に配信している）！

思想、歴史、そして、政治へのコミットメントが、これまで、その種の人物と比べると、かなりの懸隔がある（もちろんいい意味で！）彼のスタンスは、いわゆる「保守」だそうである（だが、今までのそれとは一味違う？）が、ここで書いておきたいことは、その「保守」と、それと対峙する「革新」（否、「リベラル」？）の関係、換言すれば、国の歴史や政治の大きな分析枠として、彼が縦横無尽に駆使している、その「知性？」についてである！

端的には、私がこれまで抱いていた、既存の政党や、それに、相変わらずのレッテルを張つてしか、現状を見ることがないマスコミに対する違和感の原因を、彼の言動によつて知らされたように思うということである！詳しくは、これ以上書けないが、自らが、これから依つて立つスタンス（心？思想？）が、少し見えてきたということである！保守と革新（リベラル？）の相剋（融合？）を、如何に新しいものにしていくか？それが、私の最後のスタンスなのかもしれない？

○日本の教育の強み？否、良さ？それを失くすな！

そんな中、過日、ネット記事で、「日本の教育の強み」についての論稿をみた（DIAMOND online：11/17配信）。少しインパクト（情報？）が古いようにも感じたが、大切な指摘だと思うので、敢えて、ここで紹介しておきたい。多少長くなるが、「近年、『北欧の教育に学べ』『フィンランド式学びのデザイン』といったテーマの教育書をよく見かけます。確かに、海外の教育には参考になる点が数多くあります。子どもの主体性を重んじる仕組みや、探究的な授業デザインなど、学べべきところは多いでしょう。しかし一方で、私たちは『外国の教育が優れている』日本の教育が劣っている』と思ひ込んでしまつてはいないでしょうか。実際のところ、日本の教育には世界に誇れる強みが数多くあります。むしろ、海外の教育関係者の中には『日本の教育から学びたい』と言う人も少なくありません。』とあつた。

そして、「世界トップレベルの学力」として、「海外の教育者・大学関係者や研究者が、『日本の学生は本心に優秀だ』と言う。英語が喋れない人が多いという点を除けば、数学的思考力・論理的思考力・読解力の水準は非常に高い（OECDのPIISA・国際学習到達度調査／15歳を対象に『数学リテラシー』『科学リテラシー』『読解力』などを比較。日本の生徒たちは常に数学リテラシーで世界トップクラスの成績を維持しています。つまり、『知識の詰め込み教育』と批判されがちな日本の教育ですが、その知識の裏にはしっかりとした思考力が育まれているのです』とあつた。

もちろん、それはそれで、傾聴に値する見解である（が）しかし、私も事実、私は、それとは違う形で、日本の教育には、他国にはない？強さ、否、良さを感じている（ただし、こちらは、かなり主観的、否、独善的かも）。教師と生徒（学生）との人間関係や、クラスとしてのまとまりや協力関係は、極端に言えば、とても良いものだと思つていのである！だが、それが、現在では、その逆となつており、しかも、それ自体が、様々な問題を惹き起こしているともされる（表面的には？！）最早、時代状況にそぐわないとも言われているが、果たしてそれでいいのだろうか？要するに、そんなに簡単に、「良さ」を捨ててはいけないということである！

○何故、このようになるのか？その原因究明が先決！ ○ズーム交流！その時だけの盛り上がり？

本当は、このようなことは書きたくないものであるが、表面の井上氏の決意？に促されて、浅薄ではあるが、私の方々ルとなつてゐる「ズーム」であるが、先般、3年前に行つた「M市」との交流の場面を視聴した（自前での録画！）。その後、何の音沙汰もないので、担当者等も替わり、相変ることである！彼女の発言（答弁）が、予期せぬ？事態端々わらずの？状態なのだなとも思ったが、当地の友人である的に言へば、日中関係の悪化？をもたらしつてゐるというこゝとであるが、何とも言えない、鬱屈とした思いを抱かざるを得ない！どうして、いつもそうなるのだ？その原因は、ある意味分かつてゐるのに、何故、それが除去出来ない？しかも、すべてがそうなるてしまふ？！

現実の外交には、自分達だけではどうしようもない状況・構図が立ち上つてゐるということであるが、そこには、書くのも嫌になるくらい、重大な問題・課題が幾重にもある！そして、そのために、苦しい、そして悲しい日々を送つてゐる人達がいる！国と国との関係上、そうならざるを得ないと言へば、まさにそうなのであるが、残念ながら、その打開策が見えてゐない（頼みの国連も！）否、それを拒否しようとしてゐる国もある？そんな国々が、自国の国益を保持せんがために、虚々実々の駆け引き、動きを取つてゐるのが（「自国ファースト」）、この世界とも言へる？！それは、ある意味当然であらう！

そこで、今回思つたことは、自国内での自分達の論議が、他方で、国外との関係に影響を及ぼすという状況、端的に言へば、「利用される場合がある！」ということ、為政者や国民が、どのように理解し、その対処策を共有し合えるかということである！言論の自由とか、思想信条の自由とか、いろいろあるが、それが、他人や他国にどのように受け止められるかということである！「お花畑」現実指向の人達が、揶揄的に使う？を夢見ることは大切なことであるが、それは、そこに住む住人（国民）が、その維持・管理に懸命に励まなければ、夢物語に終わる？！そのことだけは、残念ながら「冷徹な事実」であるということである！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕64〉

○突然だが、「こゝで」「高天原神話」を探る？―その4―

三責子についても、もう少し深掘りしたいところであるが、ここでは、次の、天照大神の「天岩戸隠れ」について触れておきたい！ちなみに、そこには、件の「対称性／相補性」と関係する（つまり、それを象徴する、否、それを導かせる？場面（要素）が、示されてゐると考へてゐるのでもあるが、要は、これもまた、実際の事績（事実）ではなく、多分に、何かを暗示（象徴）するために考案されたものということである！

その最大の場面（要素）が、「隠れる前」の大神と「再び現れた」大神の関係である（それと並行して、別途になるのが、「日食」との関係でもあるが！―単に、隠れた神が、再び姿を現したただけなのか？それとも、それは、いわゆる「大神の交代劇」であつたのか？ということであるが（「卑弥呼」と「台号／尊」のそれ！）、もし、後者であれば、そこで示されてゐる事績（事件）は、その頃の氏族（各種勢力）の動きや関係を投影させてゐるものとも言えるわけである？！

そこで、もし、そうであれば、かの「素戔鳴命」の乱暴狼藉は、ある時期からの「邪馬台国（連合）」の混乱と、その原因となつた勢力の侵入が、そこに暗喩されてゐるということになる？！ただし、その場合、「素戔鳴命」の出雲追放（美は進出）は、その後のことであるので、その乱暴狼藉自体は、出雲以外の地で行われていたことになる（一応、「高天原」ということであるが、実際には邪馬台国（連合）＝倭国の地ということだが、最も素戔鳴命が高い！）しかも、「素戔鳴命」自身も、天孫族の一員なのである（ある意味、天孫族の分裂ということかもしれない）！

ということで、高天原神話においては、「魏志倭人伝」に示されてゐる「卑弥呼ないし台号／尊」が、万世一系の皇祖神「天照大神」に昇華されてゐるということであり、その存在（関係性）が、後の「持統天皇」に習合されてゐるのではないかということである！したがつて、かの素戔鳴命の、高天原における乱暴狼藉や、その後の「出雲追放」八岐大蛇退治（出雲進出）＝大國主の国作り＝「国譲り」の神話は、その後の「邪馬台国（連合）＝倭国」の推移を示すものとも言えるのである？！（つづく）（堂本）

〈編集後記〉いろいろなところへ行つた（参加した）今月であつたが、いよいよ残すところ、あと一月である！だが、いつもよりは、忙しそうである？！どうなることやら？（井上／堂本）

・我が最後の「心（思想）」のスタンス？

過去（保守）と未来（革新）を繋ぐこと？！

・我が国の強み？ 否、良さ？ それを失くすな！

教育の世界には、それが多々ある（つた）！

・「お花畑」夢見ることも 揶揄することも

ただそれだけでは うまく行かず！

・案の定 何も変わつていない？

あれは幻だったのか？ 否、そうではないはず！